

第2回廃棄物減量等推進審議会（第6次）議事録

平成20年2月19日（火）

午前10時～午前11時40分

産業文化センター中会議室

出席委員 広瀬会長、加藤副会長、玉木委員、坂崎委員、中村委員、西尾委員、硯見委員、
安藤委員、水野委員、谷口委員、加納委員、吉川委員、陣野委員

欠席委員 平井委員、福井委員

事務局 渡邊環境経済部長、鈴木課長、藤井、前田

事務局 （開会）

前回審議会からの間に、1名の退任委員と新任委員があったため報告。

事務局 （市の廃棄物処理の現状等について、資料により説明。）

平成17年7月のごみ処理手数料の値上げ以降、家庭ごみの排出量は減っている。
また、平成18年1月の笠原町との合併後、平成18年7月から笠原町地域でも
23分別収集を開始した。循環型社会システム構想はB段階になっており、生ご
みのリサイクルが課題となっている。平成18年1月に稼動開始した堆肥化セン
ターでは、学校給食や市民病院から出る生ごみの堆肥化を行なっている。また、
平成20年2月から、笠原町の梅平団地をモデル地域とし家庭の生ごみ堆肥化事
業を試行した。資源集団回収奨励金の交付や生ごみ処理装置購入補助も継続実
施する。ごみ減量の啓発としては、エコ・クッキング講座や小中学校などでの
講座を行なっている。

会長 質疑はありませんか。

委員 市の広報紙で、堆肥化センターで家庭の生ごみを堆肥にしても、多治見市内で利
用しきれないと書いてあったように思うが、何か有効な使用方法はないのか。

事務局 多治見市全域で考えた場合、多治見市内の全世帯の生ごみを堆肥化すると多治見
市内で使用できないという仮定の話であり、まだ、堆肥化センターで製造される
堆肥は臭いの改善や、生ごみの収集方法など検討すべき課題が多い。課題を解決
しながら堆肥の有効利用等についても検討していく予定なので、審議会でもご意
見をいただきたい。

委員 家庭から排出されるごみの組成調査を定期的に行なったデータにより、23分別で
資源として分けられるものが、ごみの中にどれくらい混ざっているかなど廃棄物
処理の概要に掲載していくと、ごみ減量を検討する資料になるのではないかと。

委員 多治見市と笠原町の合併により、ごみの排出量のデータの過去の比較がわかりに
くくなっている。比較対象が変わってきているので、安易に家庭ごみの量が減っ
ているとは結論付けにくい。今後、統一したわかりやすいデータを提示が望まし
い。

事務局 ご審議しやすい資料を揃えていけるよう検討します。

会長 今後は、「多治見市廃棄物処理の概要」にさまざまなデータが掲載されているので、全てこの概要が基本となり、どこからどの数値が導き出されているのかが、わかりやすい資料を作成してください。

委員 啓発の講座は年に何回行なっているのか。

事務局 エコ・クッキング講座は年に1～2回、小中学校については、どの学校も総合学習の時間などを利用して、積極的に環境学習に取り組んでいるので、各小中学校に1回以上は行っている。特に、昨年からは始めた学校給食の牛乳パックをリサイクルする取り組みが、環境意識の向上につながっていると考えている。

委員 ドイツの事例だと学校の教室からごみ箱をなくした。海外や日本の先進事例など情報収集し、提案していく予定はあるか。

事務局 事例提案の予定はない。各学校の総合学習などで環境へ取り組んでいく方針に添って協力している。

会長 環境学習のメニューPRに努め、子供たちが環境学習などに参加できる機会を増やしていくことを検討してほしい。

委員 多治見市がごみを削減する方向性をもっと明確に市民に示していけないか。生ごみ堆肥化モデル事業だけでなく、各家庭が生ごみの堆肥化や減量に取り組めるようなコストについての説明などをもっとPRしていけないか。

事務局 現在、循環型社会システム構想はB段階になっており、生ごみ対策が課題となっている。ただ、全市的な生ごみ処理施設の建設は経費がかなりかかる。今後、どのような施策を展開していくか、構想をどのように見直ししていくのかについて、審議会のご意見を伺っていきたい。

会長 ごみ量については、値上げ後に減量し、しばらくはその量にとどまるが、数年後には増加する傾向があるため、どういう施策をどの時期に行なっていくかが課題となる。

次年度以降の施策や現状について、次回報告してください。

事務局 （地球温暖化対策としてのレジ袋有料化について、資料にて説明）

東濃県域循環型社会形成推進協議会（H15 設立）を中心に、各市連絡を密にとりながら、21 年度末のレジ袋有料化に向けた具体的な検討・調整を行なっていく予定。

会長 質疑はありませんか。

委員 生活学校では、独自の活動で大手スーパーの出口アンケートを行なった。その結果、7割程がレジ袋有料化に対し賛成だった。そのため、生活学校としてスーパーにレジ袋を有料化するようお願いしたところ、今後、時期は未定だが有料化の予定だとの返答だった。ただ、スーパーはレジ袋を有料化すると、有料化していないスーパーに買い物客が流れてしまうのではないかと心配していた。レジ袋有料化については、進め方が重要になるのではないか。

事務局 協議会は、行政と小売店（スーパー）と市民により組織され、それぞれの立場に

より協力体制をつくる。平成 20 年度で進め方も含めた具体的な事項を決定し、平成 21 年度に試行する予定。

- 委員 東濃 5 市だけでなく、お隣の可児市などとも情報交換の必要があるのではないか。
- 事務局 可児市との連絡調整は必要だと考えている。新聞報道でも可児市がレジ袋結有料化の準備を進めているとあったので、連携していきたいと考えている。
- 会長 レジ袋は、ごみ全体量に占める割合は少ないが、生ごみをレジ袋に入れてからごみ袋に入れている家庭が多く、レジ袋がなくなると生ごみの水切りが良くなるなどの 2 次的な効果は大きい。このような事も、事前に広報するなどして進めてほしい。

事務局 (平成 20 年度一般廃棄物処理計画 (案) について説明)

会長 質疑はありますか。

委員 陶器のリサイクルのため、他市の廃陶器を多治見市内の陶磁器製造企業に持ち込んでいると聞いた。他市の廃陶器を持ち込むのではなく、多治見市が全市的に陶器のリサイクルに取り組めないか。

事務局 G L 21 という陶器リサイクルのプロジェクトがあり、実際に一部廃陶器を他市から持ち込んでいる。多治見市でも全市的に取り組むためのモデル事業として平成 19 年 1 月にホワイトタウン (脇之島町) で家庭の廃陶器の回収を行なった。廃陶器の回収を 23 分別収集で行なうのか、収集方法をどうするのか、事業系の廃陶器はどうするのかなどの課題の検討を進めている。

会長 販路の拡大など、売れなければリサイクル陶器も作ることが難しい。全て含めて検討する必要がある。

委員 私は、G L 21 のプロジェクトに参加しているが、他市からの廃陶器は、飲食チェーン店がリサイクル陶器を購入する代わりに廃陶器を原材料の有価物として受けている。

所沢市は、都市部であり埋立場を確保することが難しく、陶器を埋立処分する経費の 1/2 でリサイクルすることができる。しかし、地方では埋立処分費の方が安くなる場合もあり、全国的規模で進めることは難しい。

多治見市で廃陶器の回収のモデル事業を行なったときも、リサイクル可能な食器以外の花瓶や灰皿などが持ち込まれた。そのため、説明をする人が必要になるなど、現在の 23 分別収集で行なうためには人的な課題が残った。また、販路については、食器の種類やデザインを増やすなどして拡大に努めている。

委員 笠原クリーンセンターの焼却炉の稼働を中止し、三の倉センターへ移行するというのは、どういう理由で行なうのか。

事務局 収集された家庭の燃やすごみは、既に全て三の倉センターで処理している。現在、笠原クリーンセンター焼却炉で処理している燃やすごみは、直接持ち込まれた家庭ごみと、事業系ごみのみ。ごみの減量により、三の倉センターのみで処理が可能となったため、ごみ処理経費を抑えるためにも焼却炉の稼働は三の倉センター

のみにしたい。ただし、笠原町地域は、家庭ごみも直接持ち込む方が多かったため、焼却炉を停止した後、持込みごみは、しばらく受ける予定ではあるがいつまで行なうかは検討中。

委員 リサイクルステーションの管理については、各地域でお願いしていると思うが、立ち当番など高齢者のみの世帯などがあり、リサイクルステーションの管理がしっかりできているところは、市で立ち当番を止めるように進めても良いのではないか。

事務局 リサイクルステーションの管理については、地域にお願いしており管理協力金を支払っている。既に、市に相談があれば、立ち当番などは各地域で決めていただければ管理方法はどのような形でも良いと説明している。ただし、リサイクルステーションについては、現在もしっかりと分別し管理されている箇所と、まだまだ改善が必要な箇所とがあり、全市的に立ち番の必要がないと市が進めるのは難しいと考えられる。

委員 飛灰には重金属が混ざっているので、そこから重金属を取り出すことも今後検討してはどうか。ただし、コストがかなりかかってくると思う。

事務局 飛灰から重金属を取り出す事は、技術的には可能となっているが、かなりコストがかかる。現在、建設中の最終処分場で一時保存している間に、コストが下がれば考えていきたい。

委員 平成 20 年度一般廃棄物処理計画(案)の 9 ページの生活排水処理計画に、水洗化、生活排水処理人口と未処理人口が記載してあるが、今後数年間の具体的な計画はどのようなになっているのか。

事務局 水洗化、生活排水未処理人口は減少し、水洗化、生活排水処理人口が増えると思われるが、具体的な詳細は下水道課に確認し、後日報告する。

委員 テレビなどで、ペットボトルは中国へ売却すると高値で引き取られると報道されている。多治見市の 23 分別で収集したペットボトルの追跡調査は行なっているのか。

事務局 多治見市で収集したペットボトルは、容器包装リサイクル法に基づいて、国内流通させるため、容器包装リサイクル協会の指定ルートにのせているので、国外に持ち出されてはいないと理解している。

委員 ペットボトルや古紙をリサイクルさせるより焼却処分したほうが、コストを抑えることができるという考え方もあるが、多治見市の考え方として、環境負荷とコストとどちらを重要視するのか。

事務局 実際には、CO₂の排出のことまで考えてコストを出す事が難しい。多治見市では環境負荷を軽減するためにはある程度のコストがかかって止むを得ないと考えている。

会長 環境負荷が軽減されても、コストがかかっていることがある。ただし、環境負荷とコスト負担のどちらを選択するかは各市の考え方ではあるが、どれだけのコストをかけて、どれだけ環境負荷を軽減したということを市民がわかりやすいよう

にPRしていくことは必要だと思う。

会長 次回からは、廃棄物処理の概要と、一般廃棄物処理計画の数値との関連がわかりやすいような資料を作成していくとよい。

会長 さまざまな意見が出されましたが、平成 20 年度一般廃棄物処理計画（案）についてはいかがか。細かい修正等については、会長と副会長と事務局に一任していただき、特に意見がなければ審議会として承認することとしてよろしいか。

委員（一同） 異議なし。

会長 では、その他意見がなければ、次回開催は平成 20 年度秋口を予定する。
（閉会）